

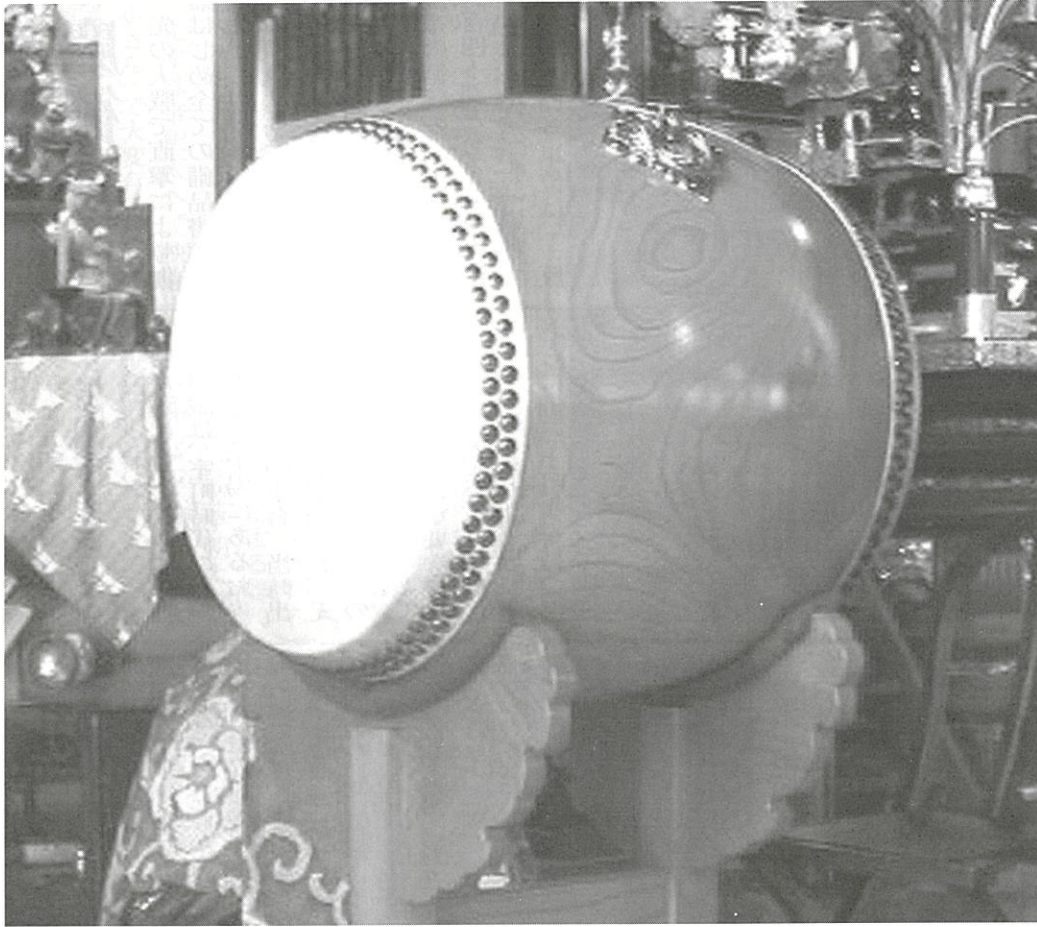
# 蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆  
近藤龍弘

〒940-0052  
長岡市神田町1丁目4番地10  
TEL.(0258) 32-2811

◆スタッフ◆

小林国二 小林善秋 高橋潔 加瀬由紀子  
室賀清輝 近藤マリ子 近藤善信  
後援・株式会社アサヒ  
印刷・(株)北越時報社



大般若法会の日に名児耶清様から奉納された大太鼓

## 太鼓の響きに心を奮い立たせ 日本文化に触れる

翠巖龍弘

写真の大太鼓は東京のお檀家様から寄贈されたもので、六月十二日の大般若法会で初おろしさせて頂きました。ご祈祷では太鼓が使われませんが、禅宗では鐘・版・手聲・聲・木魚等多くの鳴物が使われます。鼓(太鼓)も法要や他、色々な場面です。

かわれる大事な鳴物です。  
例えば  
『小参鼓』…小参(学人が住持より親しく法を受けること)の始まることを大衆に報ずる鼓を言う。  
『上堂鼓』…上堂(法堂に上り説法をすること)に上るときの大鼓。  
『普説鼓』…普説(宗旨を挙揚して学人を説得するため、普段に行われる禅宗の法式)を行うときの大鼓。  
『齋粥鼓』…僧堂において朝昼の食事を知らせるために打つ鼓。  
『茶鼓』…祖忌に茶を献ず

る時や、祝賀の会式に来賓大衆等に供する茶礼・湯礼などを一同に報れせるために打つ太鼓。  
『普請鼓』…大衆に普請(遍く衆を請して勤勞すること)を告知するために打つ太鼓。  
『晝鼓』…夜明けを知らせる太鼓。(昏鼓:黄昏に打つ太鼓)  
『大撞鼓』…普山、上堂、首座法座等のとき太鼓を鳴らす法の一つ。  
等、打ち方もそれぞれによって違います。

また、太鼓腹・太鼓判(太鼓のような大きな印判転じて確実な保障の意・太鼓橋等その形からくる名もあるようですし、「大鼓も、撥の当たりよう」(太鼓も撥の当たり方によって、大きくも小さくも響く。当方の出方次第で相手の反応が様々である事のとえ)・「太鼓を打

てば、鉦が外れる」(同時に多くのことをなしえないたとえ)・「天鼓を叩く」(相手の言うことに調子をあわせて機嫌をとる)等、色々な響えに使われております。又、昔は時太鼓として時間を知らせるためにも使われました。

夏になりますと全国あちらこちらから(ドンドンドド)と、祭り盆踊りの太鼓の音が聞こえてまいります。太鼓を聞きますといやなこととも忘れ「よしヤルゾ!」と元氣の出てくる人も大勢おられるのではないでしょう。か。太鼓には心を奮い立たせる不思議な力があると同時に古からの郷愁をかんじさせる響きもあるようです。

太鼓の響きに触れることよって閉塞感のある世の中を吹き飛ばし、古くから伝わる日本文化を大切にしていきたいものです。

ご家族の皆さままでご覧下さい



近隣寺院紹介

# 慶徳寺春秋

長岡市土合

慶徳寺住職 金子 重紀

先の大戦で直撃により伽藍はじめ全ての備品書類を消失して以来詳細は不明なままであります。昭和五十八年編纂の新潟県寺院名鑑には、室町中期の南北朝末戦国時代の資料、越後検地帳に曹洞宗慶徳院の名で一万余六千六百四十刈と有るそうです。

江戸時代の記録資料では、刈という単位は、一反の田で一百刈と換算している資料が多いようですから、概算十六町歩の広さを持つ寺院であったと言うことです。これは、田ではなく境内地であったと思われる



絵・禅道泰蔵

資料が別にあるようです。その説は、室町時代の曹洞宗の寺院で平場にあるお寺は珍しく、この土合、当時出合と言われ、信濃川と柿川その頃赤川と呼ばれた二つの河川が合流する大変肥沃な耕地で、経済的に重要な高級地域であったらしく、境内地十町四方の七堂伽藍を備え、さらに畑三十町歩を持つ二十八軒の豪農で維持されていた、空海の開いた真言宗のお寺であったと言う説から、先の十六町歩は境内地とそれに続く畑地と思われま

す。また、ご本尊様が、延命地蔵様で曹洞宗の釈迦牟尼佛様でないところから、当初は真言宗のお寺であったと言うことは、十分納得出来る説であります。

現慶徳寺は、千六百十八年江戸初期、寺院法度制定三年後に、戦国末期に消失し、消滅してしまつた慶徳院を曹洞宗として開山された、栖吉普濟寺八世傳室龍の大和尚様をご開山様として、います。

毎年この六月二十四日は、戦前には地藏講といわれた大般若会が行われ、杉木立の参道で十数軒の屋台も建ち、田植え後の土合のご信徒が、五穀豊穡家内安全などの祈願をして山門市をなしたそうです。

現在では、この杉木立の伽藍も戦災で消失しましたが、六月二十四日大般若会には、十数種類のアジサイを中心に様々な山野草が咲き乱れて近隣の方丈様方をお迎えいたしております。

「アジサイの花も賑わう大般若」

梅雨真つ最中ですが、この

時期境内には露やどくだみ果てはわさびまでが群生します、もちろん雑草も元気で

「干す梅の香り漂う草むしり」

境内のどんぐりやケヤキには、毎年オナガキジバトなどが三つ四つ営巣します。二月頃からつがい枝振りの調査をして若葉で枝がすっきり見えなくなると巣掛します。

「落ちた果のそばに破卵の梅雨の入り」

鳥たちだけでは有りません、アマガエル、シマヘビ、アゲハチョウ、おはぐろトンボ等様々な昆虫類が一斉に境内をにぎわします。

「新しき羽お披露目のアゲハチョウ」

梅雨が明けると蒸せかえる様な草いきれ、何もかも焼き尽くすほどの輝く太陽とせみ時雨です。

「雛を待つ森も木立も燃えたぎり」

お盆の棚経の日、八月十五両日は、一年でもっとも暑い日です。お経は、ハンカチでは間に合いませんから長袖の着とももしきを着て汗の流れを防ぎます。不思議

小生こと八十六歳、老化極めて順調。足腰弱くなり、物忘れ激しく、何かと手を煩わす様になりご迷惑をおかけしていることと思ひますが、何卒ご勘弁願ひます。

檀徒入会から墓地設定など、先代廿六世様には格別ならました事、この際改めてお礼申し上げ、面影を偲び御冥福お祈り申し上げさせて頂く次第で御座います。

## 先住忌に先代見龍大和尚を偲ぶ

先代見龍大和尚様  
御冥福を祈り  
申す所  
先住忌に先代見龍大和尚様を偲ぶ  
先住忌に先代見龍大和尚様を偲ぶ  
先住忌に先代見龍大和尚様を偲ぶ

心に心打たれ、自然に頭の下がる思いがいたします。

倉重 清

昭和五十三年の十二月七日に、なんの連絡もいられないで、亡き方丈様が我家に来てくださったことは、今でもハッキリ心にやきついております。ありがたくて涙が出ました。バスに乗っておいでくださったのです。

みぞれが降って寒い日でした。「イヤ、今日はおとつあの祥月命日だから」とおっしゃって、ほんとうにありがたくて、今更にお礼申し上げます。

タクシーを呼ぶことも気がつかず、バス停へお送りしてお礼申し上げた失礼を今でも気になり、時折思っております。

金子トシ

議とこの二日間が終わりますと急激に涼しくなりせみの声も急に少なくなり寂しそうなヒグラシが代わって鳴き始めます。

「名月は旅する雲の道照らし」

境内の梢から昇るこの頃の満月は、借景でなく境内地から昇るような錯覚さえ覚えます。



# 楽しかった

## 大本山總持寺の旅

小林 秀子



好天に恵まれ、定刻通りにバスは安善寺様を出発しました。お寺の旅行参加は初めてですが、参加者の皆様はいつもお寺の行事等と一緒にいる方達で和気あいあいの楽しい雰囲気が目的に地へスタートしました。

先ずは帝釈天へ。映画「寅さん」で大変有名なところで。映画の場面が蘇り登場人物になったような気がして…。帝釈天の裏側の

方には「矢切の渡し」があり、歌謡曲を聴いていただけのほうが良かったかな。

次に大本山總持寺へ。都会の中にあるのにそこだけは静寂で厳かな空気が流れており身が引き締まる思いをしました。翌早朝より、安善寺様のご子息の立派なお勤め姿を拝見させていただき胸が熱くなる思いでした。早く立派にご修行を終えられお帰りになるのをお待ちしたいと思えます。

最終日はいわきの白水阿弥陀堂・石灰化石館に寄り楽しい楽しい旅の思い出と共に帰宅致しました。皆様と仲良くさせていただいたことを感謝して又の旅行を楽しみにしております。



二日目は車内の禁酒がとけ非常にリラックスしたムードで旅が進みました。水戸の西山荘・日本三大名瀑の袋田の滝に寄り、その後母畑温泉にて楽しい宴会を過ごし温泉で汗をなぐしました。

# 安善寺でコンサート!

### — KAKA(呵呵)笑の会発足 —

加瀬 由紀子

威厳と風格に満ちた安善寺の本堂に座すると、天文十二年(一五四三年)に開創された永い歴史と仏教の聖地インドへ続く遙かな道のりが浮かび、平安を求めて参詣に訪れた人々の思いの前に襟を正さずにはいられません。しかし、二十一世紀を越した由緒あるお寺に新しい空気を注ぎ、更なる未来へと続く扉を開く事も時代の流れではないでしょうか。地域に広く開放す

威厳と風格に満ちた安善寺の本堂に座すると、天文十二年(一五四三年)に開創された永い歴史と仏教の聖地インドへ続く遙かな道のりが浮かび、平安を求めて参詣に訪れた人々の思いの前に襟を正さずにはいられません。しかし、二十一世紀を越した由緒あるお寺に新しい空気を注ぎ、更なる未来へと続く扉を開く事も時代の流れではないでしょうか。地域に広く開放す

ることにより、若い人たちにもお寺、仏教に親しみをもち、理解を深めていただき、新しい文化の発信基地としての活用を願って、楽しい会が発足しました。

「KAKA(呵呵)笑の会」といいます。呵呵笑とは「大きな声で笑う」ことを意味します。広く会員を募集しております。檀家の方でもなくてもオーケーです。年齢、男女は問いません。実行委員には早速数名の女性たちが手を挙げてくださいました。会員、実行委員共、随時受付中です。

記念すべき第一回のイベントは「ハーブティと香りリラックス、チェロを楽しむ夕べ」です。七月二十五日夜六時半、本堂へおい

第二部はいやしの楽器と言われるチェロの響きをお聴きください。片野大輔さんは、チェコから長岡に帰郷、新進気鋭の演奏家として高く評価されています。ピアノの斎藤竜夫さんは、作曲家としても知られ、息の合った片野さんとのコラボレーション(合奏)は、夏の夜の衣服の清涼剤となること請け合いです。安善寺の広い本堂が重厚な舞台装置として、素晴らしい音響効果をもも出し出すはず。皆様のおいでを心よりお待ちしております。なお、駐車場がございませんのでお車でお越しはご遠慮願います。

**[KAKA笑の会] 第1回**  
**ハーブティと香りリラックス、**  
**チェロを楽しむ夕べ**

■日 時 7月25日(金) 午後6時30分～  
 ■会 場 安善寺本堂と境内  
 ■参加費 1,000円



# 読者からの便り

楽しみに拝読しています

仙台市●佐藤ぶき子

安善寺便りありがとうございます。皆様のお心のこもりました記事はどれも心に沁み入るものばかりでございました。

龍弘師と、小林国二様の水の結晶の記事には驚きました。万物に佛性が宿っていて、心してお水に感謝しなくてはと思いました。

息子一家にも安善寺便り



を読ませたいと思っております。入れ歯で苦勞なさいました由、面白く読ませていただきました。イラク戦争は悲しいことでございます。

私が栃木県におりました時、戸川昌子様の講演会に行き、戸川様の生のお声でリリーマルレーンの熱唱を聴かせていただき感動した事があり、最後の歌詞が加瀬様の記事にあり、ノートに写させていただきました。

カセットテープを探して聴きたいと存じております。旧長岡中学は私の所属いたしております「コスモス」

短歌会の創刊者宮修二先生の母校でもあり、田宮朋子様は、目下有望な歌人でもいらつしやいます。

中々墓参も叶いませんが、またお参りさせていただきたく、私事八十二才となり、少々足が悪いながらも無事消光させていただいております。

また次の記事を楽しみに致しており、編集のご苦勞に感謝致しております。皆様お大切に下さいます。御礼まで。

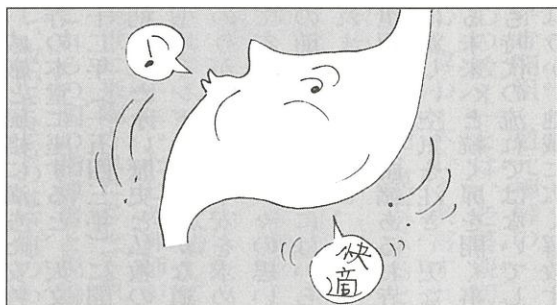
## 腹を立てぬ毎日楽しい

長岡市●多田 隆三

前号に、方丈様が修証義をお書きになりました。門徒でもない私ですが、あることで修証義に接する機会を得ましたので投稿させていただきます。

三年程前、急に意識がなくなり、三途の川の手前にあると言われるお花畑を見てまいりました。本当に綺麗な一面のお花畑でした。

倒れた原因は、胃潰瘍でしたが、潰瘍の原因が病院では、はっきりしません。



した。あるお寺様に言われたか、「腹を立てませんでしたか」と言われてみれば思い当たる節がありました。そして、「腹を立てなさんな。修証義に貧瞋癡と言葉があり、貧はむさぼり、瞋は怒り、癡はおろか・まよい。これが人間の煩惱ですよ」と教えて下さいました。それから修証義を勉強しました。

我昔所造諸悪業、皆由無始貧瞋癡、從身口意之所生、一切我今皆懺悔(第十節)腹を立てぬ毎日は、楽しい毎日でございます。

## お彼岸に思う

新津市●中野 健一

私が安善寺様にある先祖代々のお墓を父親から譲り受けて、もう四年目になります。

私の知らない先祖から、私を育ててくれた祖母、祖母、祖父、両親、そして家内の母が眠っています。三月には、百三歳の祖母が亡くなりました。

私がお墓を預かってから五人の肉親との別れを経験しました。この五人の肉親の生き様の中から教えていただいたのは「感謝する」ということが一番大切であ

るということでした。この世との別れの最後に、全身から搾り出す言葉が「ありがとう」という言葉でした。

私が新潟に移り住んで三十六年目。もうすぐ還暦になるうとしています。この間、仕事の上や個人的に知り合った多くの方々に感謝する気持ちを大切に暮らしております。

先日もお墓を掃除し、本堂にお参りを済ませて帰ろうとすると、本堂の脇に黄色い花を咲かせる福寿草が美しく咲いており、雪割草も競って花を美しく見せてくれていました。 合掌





### 越後ごぜさんの思い出

長岡市●鈴木タマエ

この間の季刊誌で読ませてもらう、思い出しました。私の小学三年のころは、大変な大雪で、本当に雪国という感じでした。その大雪の中、越後ごぜの人たちが一月の終わり頃から二月の初めにかけて毎年三人一組で来られていたのを覚えております。

足袋を履き、わらじ履きで雪の細い道を、しまのカッパ姿でかさをかぶり、一番前の方が少し眼の見える方、後の二人は全然見えないう方で、前の人の細ひもをたよりに歩き、雨具のカッパが雪道に接するため、カッパのすそがしみついて凍って、重くなり大変だったろうと思います。

そして三味線を三人が肩に掛け、一軒一軒、戸口から戸口へと弾きながらまわり、皆さんからの謝礼を受けていました。

四時くらいになると私の家に帰ってこられ、家になると足が真っ赤になっていて、感覚がないほどにな

ったと云っておられ、小さいながら、大変だなと思いをしました。

家のおばあさんが、さあさあコタツが暖かいから首までもぐって暖まりなさいと云っておられ、本当にやさしく感じました。

少し体が暖まると、今日一日無事働け多くのお米やお金の謝礼に、大変喜んで感謝しておられました。

夕食も三人で上手に寄り添って、ここにごはん、ここはお汁、次はおかずと、

眼の見える方が優しく教えてやり、ありがとう、ありがとうと言われ食事をされておられました。トイレもどこへ行くにも三人協力しあっていた。私は、小さいながらも協力しあって頑張っている姿に感動を覚えました。

夕食が終わると、近所のお年寄りを十人くらい呼んで、三味線に合わせて三人で物語りを歌って聞かせ、なかなかのもので、集まった人たちは、なんとも言え

ぬ気持ちになり、皆が喜んで目を細めて聞き入っていました。聞きに来た人たちは、あまりの語りに聞き惚れて、涙を流して、しばらく余韻が冷めずに帰ろうあ、もう一曲と云って、短いのを歌われていました。

皆が喜んで帰った後は、お休みなさいと言ってお休ませ、朝早く起きて身支度をし、朝ご飯を食べ、おにぎりをもらって、今晚もまたお願いします、と言って出かけられ、二晩泊まると、来年もよろしく、と言って次の村に出かけられました。朝見送り、今度はどこで過ごされているのかなあと、家族で話をしています。当時は、雪でなにもなく、ごぜさんの語りは楽しみの一つでした。

先日、たまたまテレビを見ていたら、家に来られた三人のうちの一人の方の顔が映っていました。百三歳になられたとのこと、お元気に施設で過ごされているとのことでした。

顔は穏やかで、お話しも

っかりしておられました。が、お仲間の方も一人減り、二人減りして、お一人になったというふうなお話で、一人になられ寂しそうな感じでした。

何十年ぶりかでお目にかかり、生きていらっしやっただなあと懐かしく思ひ、つい筆を執りました。これからお元気で過ごしてください。

### 家で看取るということ

長岡市●高橋 正昭

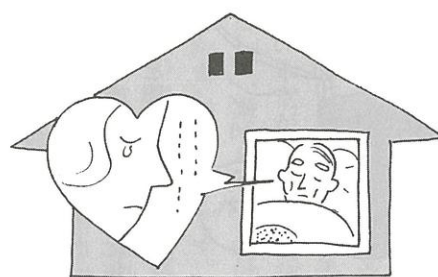
早いもので、父が逝ってから七年が過ぎようとしています。昔はほとんどの人が家で亡くなられたのですが、現代は、その役を病院が担っているようです。実際、私の祖父母も病院で亡くなりました。

父の場合は、何より本人が家に帰りたいがりました。家で看取ると決めるまでには色々な経緯がありました。具体的なことでは、二十四時間の点滴、看護、食事です。これは担当の先生が父の希望をよく聞き入れ

てくださり、一日一回の訪

問看護と往診の医師の確保ができました。また、点滴は家人が教えてもらって注液の差し替えをしました。

しかし、一番の不安は、本人が苦しんでいる時に医師がすぐに駆けつけられないのではということと、苦



しみを取るすが家人にはないことでしょう。事実、一週間のうちに何回かそういうことがあります。

けれど、自宅に帰って家族に囲まれて最期の別れの言葉を残して逝った父は、家族の中に忘れられない感動を残してくれました。

私はきつと、それが父の残したかったことだったのだらうと思います。



戦争と平和

長岡市●酒井美与吉

雪国の冬が終わり、春の彼岸を迎え、平和な新世紀を待望する人々を驚かせたのは、三月二十日の戦争勃発!!

イラクの大量破壊兵器査察問題で、国連の安全保障理事会が紛糾。安保理の調停を見限ったアメリカは、フランス・ロシアなどの猛反対を押し切り、イギリスと共にイラクに最後通告。

ブッシュ大統領曰く「大量破壊兵器を隠し持ち、テロリストを唆して平和を脅かす無法国を武装解除し、暴虐な独裁者の壓制から人民を解放するため、我等は戦う。「イラクの自由作戦」と名付け、この正義の戦いに我々は必ず勝つ。我々が祖国と前線の将兵たちに、神の加護あらんことを…」

対して、イラクのフセイン大統領曰く「我等は頑迷なる侵略者に抗じて断乎戦う。神の名において、我が国土と文化と体制を護つて、悪魔が減るまで戦う。神の力により、我等はこの聖戦に必ず勝つ!! アラー

は偉大なり」。敵対する二人の最高権力者は、各、信奉する神の力に頼り、必勝を確信している。片やキリスト教の神様、片やイスラム教の神アラー様。頼られる神々は今困惑しているだろう。

しんでいるに違いない。佛教の国日本も、十九世紀末から、二十世紀の半ばまで、日清・日露・日独・日中・日米と数回の対外戦争を経験し、多くの反省をし、二度と戦争をしないと誓った。春の彼岸には、人々は寺



古代から愚かな人間が自分だけが正しいと訳が分からず信じ込み、民族闘争や宗教戦争を起こして、互いに殺し合った歴史をよく知る神々は、さぞや嘆き、悲

院に集い、祖先を供養し、平和に感謝した。長岡の安善寺では、多くの善男女が法要に参集し、中東の戦乱の終結と犠牲者の少なからんことを祈って黙祷。

住職龍弘師は法話で、永平寺開祖 道元禪師の「三心の教え」とは、老婆親切心・喜心・大心―換言すれば、慈悲・感謝・寛谷であると説示された。

これこそ正に社会の平安、人類協和の基本理念と直感いたしました。しかし、道元禪師入寂して七百五十年。たとえ禪師が現世に來臨されたとしても、これらの国の指導者と説論し、改心させるのは至難のわざである。日本語・英語・アラビア語という言語の壁があるからです。合掌

一緒に口ずさんでしまおう  
長岡市●白井 肇  
初めてお便りいたします。私の家では、祖父の時代に安善寺様とご縁が出来て、以来三代目の私まで、およそ半世紀のおつきあいでございます。

父が教職時代に、現方丈様とのご縁があり、三代目の私は、奥様の新潟時代の職場の部下であり、改めて縁の深さと、人の世の狭さを感じるしだいでありませう。



現方丈様には、三六豪雪のときに、二階家の屋根の上にながっていただき、除雪をしていただいたことは、いまでも心に残っており、感謝の気持ちで一杯です。

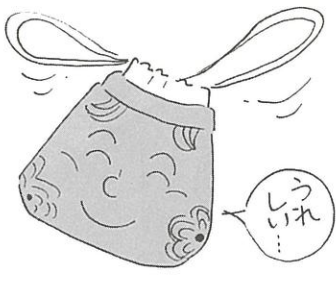
私は、お寺に父の代理として参拝するようになり、行事にも参加するようになりました。何も分かりませんが、般若心経や、修証義、大悲心陀羅尼等をいつしか斉唱している自分がとても好きです。方丈様方のお声を聞いているのが正しい参拝の姿なのでしょうが、なぜか一緒に口ずさんでいるのです。どうぞおゆるしください。

感謝いたしております

東京都杉並区●本間 育子

今日は、楽しみの季刊誌をお送りいただきありがとうございます。中に思いがけぬお守り（涅槃だんごの入った袋）をいただき、すぐ身につけてお医者に行つてまいりました。

この年（九十一歳）になりました。外出は病院だけ車で送ってもらつており、何とか長女に食事を運んでもらいますが、無事過しておりませんが、お墓参りが出来なく、何とかもう一度お参りに行きたいと思つてあります。



お守り袋の美しく、可愛いものをお作りになるお方々の心もうれしく、感謝いたしております。季節の変わり目、ご自愛ください。



思い出を報告に:

長岡市●村田 昌子

春の彼岸の入りに近い朝、新聞を見ていたら、おみやみの所に知人の名前がありました。そうそう、もう何十年も前のことですが、その方と方丈様のお母様と、うちの母と、もう一人の方の四人で、ハワイの花まつりの行事に参加させてもらって(多分母は初めての海外旅行だったと思います)、楽しい一週間を過ごさせてもらったことを思い出しました。



ハワイの佛教徒の人たちは、日曜日に一家でお寺に行つて、お話を聞いて半日をゆつたりとした気持ちになつて過ごして帰ってくるというので、大変良いことだと、母は感心していました。キリスト教の人たちが日曜礼拝に行くのと同じように、お寺に行くのだそうです。日本は、年寄りにならないと、お寺に行くものではないように思っています。が、お寺に足を運んで欲しいと思います。が、私も忙しいにかまけて足が遠のいて

ています。すみません。旅行に行った四人は全員「あの世」という幸の国へ行きました。みんなで集まつて、楽しい話をしていくことでしょう。お彼岸にお墓参りをし、懐かしく思い出しています。と、報告をして来ようと思つています。

冥利とは:

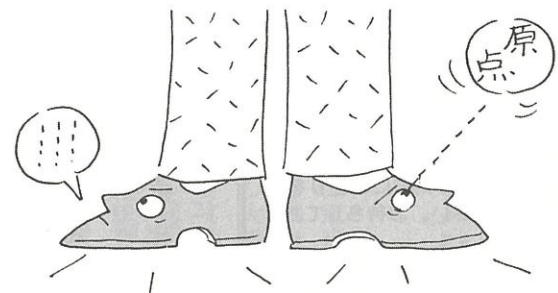
長岡市●佐藤 紘一

ふと感じるに、日頃何気なく使用している言葉のなかに、佛教からの影響と思われる言葉が随分と多くあると思う。

その中で「冥利」という言葉もその一つと思ひ、意味を調べてみると『神仏が知らず知らずのうちに与える恩恵』と記されている。

子供の頃よく年寄りに、「人間はなあ、若い時にゼいたくするとなあ、年を取ってから冥利がついてしまふ」と、幾度となく言い聞かされたことを思い出す。

これは、人間には一生の間に、各々の人それぞれに授かったものがあり、それ



を若い時に浪費してしまえば、やがて年を重ねて、そのしわ寄せが来ることになるから気をつけなさい、と諭したものと思われてならない。

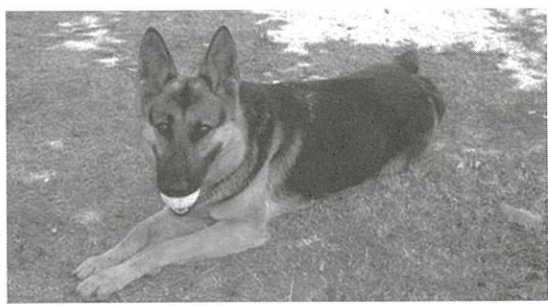
このことからして、バブル景気に浮かれ、踊っていた日々、バブルが弾けて、まさに冥利が尽きかけんかとしていくように思えてならない。昨今、今度こそ物事の原点を見つめ直して、小手先で走ることなく、地にしっかりと足をつけて、腰の据わった明日になるように努めていかねばなるまい。

ペコ日記大好き

長岡市●小杉美枝子

私は猫派の一人です。ペコのひとりごとを時々声を出して笑うことがあります。

ペコも今までは広い寺の中を一人天下、居心地も良かったことでしょう。今大きくなったさくらに圧倒されている様子。でも暖かい部屋で住職様とお母さんにかわいがられてよかったですね。安心して長生きしてね。



私たちはペコとさくらを通して、安善寺様を身近に感じさせてもらえることに感謝しております。

お別れ

(平成十五年三月〜六月末まで)

尾形英雄様 三月三日寂

長岡市長倉

渡辺松男様 三月九日寂

長岡市殿町

岩佐シゲ様 三月九日寂

長岡市御山町

鈴木朝次郎様 四月八日寂

長岡市榎山

徳橋明男様 四月十六日寂

長岡市神田町

高橋孝次郎様 四月廿四日寂

長岡市新町

佐藤マツイ様 五月廿六日寂

長岡市琴平

清水藤吉様 六月四日寂

長岡市東神田

加治 巖様 六月廿三日寂

長岡市昭和

ご冥福をお祈り申し上げます。



# あのちぎり絵は、お母さんの母上の作品

ペコのひとりごと

お寺の境内は色とりどりの紫陽花がともきれいに咲いています。最近はお母さんの家の周りもお花がともきれいです。きれいなお花は人の心を和ませてくれますからね。

最近、お母さんが廊下に竹の短冊掛けをかけ、時々中の絵を取り替えています。よく見るとちぎり絵で出来



た季節の花の絵なのです。お正月は朱竹、春は猫柳や土筆、今は可憐な夏草の絵に変わりました。お母さんにとって、そのちぎり絵はとても大切なものなのです。と言うのも、そのちぎり絵は何と今年三月に満九十歳を迎えたお母さんの母上の作品なのだそうです。最初に柿の絵を貰った時に「一年中柿ばかり掛けられない

から、季節ごとに取り替えられるように他のも作ってね！」と頼んだところ、「そんなにもう根が続かない」と言われたとか、でも「言われなければ作らないから」と時々一人で新潟からお母さんを尋ねて来る時に持って来てくれるようになったようです。

先日は、中国から長岡技術科学大学に留学に来ていた黄さん夫婦に出来た赤ちゃん（三月三日に男の子）の百日目と言う事で、お寺の三人のお兄ちゃんたちが百日目を迎えた時に着て写真撮った記念の着物を着せて写真を撮るといふことになり、お婆ちゃんも新潟から駆けつけ、一生懸命着物を着せてくれたのです。

因みに、お婆ちゃんには孫が二十二人に曾孫が十七人もいるので、何かと大忙し

第二十三号、秋号は平成十五年九月十一日(木)発刊予定です。

## お便り原稿用紙

季刊誌では、壇信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面をつくりながら、コミュニケーションを深めたいと思います。ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

### 原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問（編集部や職員が为您解答します）など。
- 嬉しい・楽しい／嬉しかったこと、楽しかったこと、悲しかったこと、怒ったこと。

のようです。でもそんな母上の元氣な姿を見ているお母さんの姿がこの上なく幸せそうに私にはみえました。着物を着せ終えカメラを構えたところに「ただいまー」と住職の声、その声を聞きつけて、さくさも吠えながら皆の所へ。甘えん坊のさくらは、ちゃっかり一緒にカメラに納まったようです。さすがの私は皆の所と言うよりは、さくらのところに行く勇氣がなく、皆の声に合わせて階段のところまで一人ポーズをとっていました。 にゃーん

## 編集 雑感

世紀明けゆく西の山河新たに旭は映えて、県民二百五十万希望に燃えてござり起き、ここぞ民主の新潟県。この歌を知っておられる方はだいぶ御年輩の方でしょうか。そうこれは県民歌です。

現在はレコードもCDもなく、メロディーも忘れられた方々も大変多いと思われま。隣の長野県の県民歌は冬期オリンピックの閉会式で演奏され、皆さんも聞いた事があると思います。長野県の人々は県民歌を県人会や同窓会には必ず歌うと聞いております。長野県の人々が特別郷土愛豊かなのでしょ。歌くらい知っており、また口ずさんでいると思います。しかし新潟県では県民歌や市歌まで忘れさられてし

まいました。ちよつと淋しい気がいたします。安善寺の本堂が改築されてから早くも十二年がたつたそうです。当時は本堂を建直す場合は全部壊し、新しく鉄筋コンクリート造りで建直す方が多かったと思います。それは建築費も積算しやすく、工期も短かったからだと思います。しかし、安善寺は当時の本堂を瓦を下し、部材を大事にはずし、本堂をジャッキアップして基礎をやり直し、建造された当時のままで（一部構造上の問題で瓦は銅板葺になりました）復元されました本堂は、費用も日数もかかったと思えますが、後世の為には大変よかったですと思っています。

古き良き物を大切にす。これは御先祖様を尊ぶ気持ちと同じだと思います。一度は皆様も県民歌を口ずさんでみませんか。前文が長くなりましたが、今回より編集委員の末席に加えさせていただきます。年は五十歳前半、住まいは市民体育館前です。よろしくお願ひします。最後に、今回は皆様から沢山の投稿ありがとうございました。（室賀清輝）